

主はノアに言われた。さあ、あなたと家族は皆、箱船に入りなさい。

創世記 8章 9章

今月はノアの物語を学びます。世界の創造物語のあと、素晴らしい世界が完成するはずでした。しかし神が作られた世界に住む人々は自分が何ものであるかを忘れ、神に逆らい、格差は広がり、悲しみ、苦しみの声が世界に充満していました。自分勝手に生きる人間。それを見た神は激しく苦悩します。後悔した神は、創造のみ業をやり直そうと考えられたのでした。人間の罪は自然も道連れにしていけます。人間はそれほどに自然世界に対する責任が重いことを知らされます。神は全てを滅ぼすのではなく、新しい世界のためにノアの一族に目を留められます。大洪水の前に箱船を作らせて、一族と二つがいの動物を船にいれ終わると大洪水が起こります。神は全てを滅ぼしてしまうのです。洪水物語は聖書の創作ではなく、古代メソポタミアの文学作品であるギルガメシュ叙事詩に出ています。今まで経験もしたことのない大洪水が古代オリエント地域で起こったのでしょうか。その出来事に関して様々な解釈が作られていったものと考えられます。神の裁きだったのではないか、二度とこんな災害が起こらないためにはどうしたらよいのだろうかと考えて語り継

いでいったのです。キリスト教は創世記という書物の中で詳細に伝えてあります。物語は良く知られていますね。人間の想像を超えた出来事、大地震や大洪水などの自然災害が起こると、これに意味づけをして誰かの裁きだと言う人が現れます。しかし起こったのかは分かりません。神はこの世界を創造して素晴らしいと感嘆された、すべてのものを大切に思っている。その神が人々が苦しむようなことを進んでなさるとは思えません。どのような困難な状況でも、ともに寄り添い、支えてやりたいと願っているはずです。

今日の私たちはノアの物語のような古代の物語から何を学んだら良いのでしょうか。先月は「人は神に創造された、世界も創造された。その世界を大切に思い、成長させていく責任が人間にあるのだ」ということを考えました。神は世界を秩序と調和の世界としようと思った。しかし歴史の中でそのことを忘れてしまうことが多かったのです。聖書は不法に満ちた世界だと語ります。これは秩序ある祝福に満ちた世界が混沌と無秩序の中にあるということです。人間のお陰で何も問題のなかった自然と一緒に滅ぼされてしまうのです。聖書にはSDG's 等という事は書かれていませんが、無秩序に使用し

続けると言う事の危険に対して私たちのできることを考えることは重要でしょう。ノアとその一族だけが選ばれたのは何故でしょう。神は全てを滅ぼしたくはない。それではどうしたか。沢山の警告を発していたと思います。ノアが神の言う通りに箱船を作ったとき、人々はどう思ったのでしょうか。神の命令などと言ってとんでもないものを作り出した。おおよそ船とは思えないような不細工な箱のような、三階建てだったと書かれています。変なものを作っていたのです。聖書は淡々と船の完成、大雨と大洪水について語っています。想像でしかありませんが、ノアが黙っていたとも思えません。きっと人々に言ったのでしょうか。「一緒に手伝ってくれ、一緒に船に乗ろう。」「神と一緒に歩もう。」その声は人々には届きませんでした。誰も箱船に乗る人はいませんでした。完成すると神は色々な動物を箱船に入れるようにと命じます。その時に清い動物も清くない動物も入れなさいと言います。神の定めた掟に清くないものを食べてはいけないと書いてあります。もしそうならこの時に清くないものをなくしてしまったら、そんな戒めを作らなくても良かったのにと疑問が出ます。神は分け隔てをすることを嫌う方なのです。所詮は清いかそうでないかは人間が決めたことで神が決めたことではないと思いますが。大洪水が起こり、船は海原を五ヶ月も彷徨います。そ

して山の頂にとどまります。それから40日が過ぎた頃、水が引いたかどうか確かめるために、鳩を放します。三度放すのですが、二度目にオリーブの若木をくわえて戻ってきます。三度目は帰ってきません。水を引いたのを悟り、ノアは箱船の扉を開けて地上に戻ります。その時に神は二度とこんなことはしないと約束されます。



I will recall the covenant I have made between me and you and all living beings

被造物である人間は常に神に聞き、神と共に歩み、この世界の秩序と安定のために生きるようにと求められているのです。子どもたちが大人になったときにどんな生き方をしてくれるのでしょうか。神が創られた世界を大切に守っていける人になって欲しいと願っています。

いつでもキリスト教について、神について、教会について質問や疑問があるときは声をかけてください。

園長、チャレンと話そう

毎週月曜日 9時半～

こどもの礼拝前

教会の礼拝

毎週日曜日 10時30分

いつでも歓迎します。